

令和4年度（2022年度）

管理事業名	こども発達支援センター事業				総合計画 の体系	大綱 4	子育て・学び		
						政策 1	子育てしやすいまちづくり		
						施策 3	配慮が必要な子供・家庭への支援		
主な歳出 予算科目	一般会計	(款) 3	民生費	(項) 2	児童福祉費	(目) 10	こども発達支援センター費		
部局名	児童部	予算執行 所属	こども発達支援センター						
<b>事業の目的と概要</b> <b>【目的】</b> 障がいのある児童の心身の発達を促すため、各々の発達課題に即した療育を行っている。また、保護者の育児に対する不安や、負担の軽減を図るための取組みを行っている。 <b>【概要】</b> 児童発達支援事業 児童福祉法に基づく児童発達支援センターとしての業務（就学前児童の通園療育・相談支援・保育所等訪問支援） 地域療育事業 療育相談・親子教室・各種療法・地域福祉講座等									

I 成果指標（活動指標）

指標名	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	指標の定義
杉の子学園・わかたけ園の園児数	人	105	105	94	こども発達支援センター杉の子学園、わかたけ園（児童福祉法に基づく児童発達支援）の利用児童数。1日あたりの利用定員は、杉の子学園70人、わかたけ園40人。
地域支援センターの外来相談件数	件	1293.0	1125.0	1,273.0	一般的な相談から必要に応じて発達・言語・作業などの発達評価と相談につないだ件数。
杉の子学園のペアレント・プログラムの実施回数	回	-	-	14.0	杉の子学園を利用する児童の保護者に対して、ペアレント・プログラムを実施した回数。 ※令和5年度行政評価から追加

II 活動実績・成果

<p><b>【成果指標1】 杉の子学園・わかたけ園の園児数についての評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用児童数94人 内訳) 杉の子学園66人 わかたけ園28人</li> <li>・杉の子学園については、令和2年度及び令和3年度は定員を満たしていたが、令和4年度は定員70人に対し、4人の未充足。</li> <li>・わかたけ園については、定員40人に対し、利用児童数28人。医療的ケア児の人数は13人。園児に占める医療的ケア児の割合は増加傾向。</li> </ul> <p><b>【成果指標2】 地域支援センターの外来相談件数についての評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体件数1,273件（前年度比：148件の増） 内訳) 一般相談：225件 発達相談：483件 言語相談：141件 作業療法相談：172件 おひさま相談件数：252件</li> <li>・令和4年度から開始したおひさま相談（5歳から就学までの児童に対する発達相談）の需要が高く、当初の250枠から300枠に増設して対応。</li> </ul> <p><b>【成果指標3】 杉の子学園のペアレント・プログラムの実施回数についての評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアレント・プログラムは、育児に不安を抱える保護者を支援するためのプログラム。杉の子学園に在籍する保護者への支援として令和4年度から実施。杉の子学園の保育士が実施者となり、子供の行動への認知の変容とほめるスキルの獲得を目的とする。</li> <li>・全体回数14回（令和4年度から実施） 前期と後期の2回実施。前期後期ともにそれぞれ6人が7回ずつのプログラムに参加。</li> </ul>	<p><b>【財務情報に基づいた評価】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・杉の子学園とわかたけ園の園児数の減少により、使用料及び手数料も減少（前年度比：18.1%の減）</li> <li>・経常費用の大部分は人件費に関する費用であり、常勤・再任用、会計年度任用等、特別職非常勤に係る給与関係費等の合計で、全体の約83.9%を占めている。専門職種の割合が非常に多く、発達支援や療育に関わることを主な事業内容としているこども発達支援センターの特徴を表している。</li> <li>・こども発達支援センターは、建築後15年が経過しており、施設老朽化比率が2.5ポイント増加している。</li> <li>・杉の子学園とわかたけ園の園児数の減少に伴い、使用料及び手数料が減少した結果、受益者負担比率が4.1ポイント低下している。</li> </ul>
--	---

III 課題と今後の取組

<p>杉の子学園・わかたけ園の園児数における、両園の課題と今後の取組は以下のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・杉の子学園については、これまで3歳児以上を主な入園対象としていたが、満3歳を迎えた2歳児も入園可能とすることで、園児数の確保を目指す。</li> <li>・わかたけ園については、就労家庭の増加を背景に、親子通園を原則とするわかたけ園への通園が困難との意見がある。児童一人ひとりの発達状況を考慮し、単独通園の対象範囲の拡大を検討する等、保護者の負担軽減を図りながら、わかたけ園への入園につなげていきたい。</li> </ul>	<p>地域支援センターの外来相談件数については、おひさま相談の需要が高く、既存の電子申込システムでの対応が困難となったため、令和5年度から新たな予約管理システムを導入する。引き続き様々な外来相談を実施し、保護者支援に取り組む。杉の子学園のペアレント・プログラムの実施回数については、今後もできるだけ多くの保護者の参加を呼びかけていく。施設管理に関しては、老朽化が進んでいることにより、今後、維持管理費用が一定程度増加することが見込まれる。施設の維持補修を計画的に進めていく必要がある。</p>
--	--

IV 財務情報

◆貸借対照表【BS】

(単位：千円)

勘定科目		令和3年度末 A	令和4年度末 B	差額 B-A	勘定科目	令和3年度末 A	令和4年度末 B	差額 B-A
流動資産	現金預金	-	-	-	流動負債	125,677	127,830	2,153
	未収金	1	1	1	地方債	89,153	90,178	1,025
	財政調整基金	-	-	-	短期借入金	-	-	-
	短期貸付金	-	-	-	賞与引当金	33,611	36,644	3,033
	徴収不能引当金	-	-	-	未払金	-	-	-
	その他流動資産	-	-	-	リース債務	2,912	1,008	△1,905
	有形固定資産	1,846,084	1,810,430	△35,654	その他流動負債	-	-	-
事業用資産	土地	851,253	851,253	-	固定負債	770,091	674,021	△96,071
	建物・工作物	990,910	958,169	△32,742	地方債	428,850	338,672	△90,178
	リース資産	3,920	1,008	△2,912	長期借入金	-	-	-
	建設仮勘定	-	-	-	退職手当引当金	340,233	335,349	△4,884
	無形固定資産	182	182	-	リース債務	1,008	-	△1,008
	有形固定資産	-	-	-	その他固定負債	-	-	-
	土地	-	-	-	負債の部合計	895,768	801,851	△93,917
固定資産	建物・工作物	-	-	-	純資産	961,355	1,018,738	57,384
	建設仮勘定	-	-	-	重要物品	-	-	-
	重要物品	10,856	9,976	△880	図書館資料	-	-	-
	図書館資料	-	-	-	投資その他の資産	-	-	-
	投資その他の資産	-	-	-	出資金	-	-	-
	出資金	-	-	-	長期貸付金	-	-	-
	長期貸付金	-	-	-	基金	-	-	-
	基金	-	-	-	徴収不能引当金	-	-	-
	徴収不能引当金	-	-	-	その他債権	-	-	-
	その他債権	-	-	-	純資産の部合計	961,355	1,018,738	57,384
	資産の部合計	1,857,123	1,820,589	△36,534	負債及び純資産の部合計	1,857,123	1,820,589	△36,534

◆行政コスト計算書【PL】

(単位：千円)

勘定科目	令和2年度	令和3年度 A	令和4年度 B	差額 B-A
経常収入	地方税	-	-	-
	分担金及び負担金	-	-	-
	使用料及び手数料	113,532	175,283	143,597
	国庫支出金(経常費用充当)	15,512	5,081	6,960
	府支出金(経常費用充当)	6,311	7,713	8,492
	財産収入	-	-	-
	寄附金	-	-	-
	他会計からの繰入金	-	-	-
	受取利息及び配当金	-	-	-
	その他	2,869	7,210	7,017
経常収入 小計(a)	138,224	195,288	166,066	
経常費用	給与関係費	535,799	555,547	561,639
	物件費	71,719	73,417	70,036
	維持補修費	1,482	846	1,907
	社会保障扶助費	-	-	-
	負担金・補助金・交付金等	15,278	11,503	3,944
	特別会計への繰出金	-	-	-
	減価償却費	38,100	36,937	37,731
	徴収不能引当金繰入額	1	-	-
	賞与引当金繰入額	37,140	33,611	36,644
	退職手当引当金繰入額	7,203	29,786	24,814
支払利息	8,834	7,584	6,324	
その他	-	-	-	
経常費用 小計(b)	715,556	749,231	743,039	
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△577,332	△553,943	△576,974	
特別収入	固定資産売却益	-	-	-
	その他	-	-	-
特別収入 小計(d)	-	-	-	
特別費用	固定資産除売却損	-	-	-
	その他	-	-	-
特別費用 小計(e)	-	-	-	
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	-	-	
一般財源調整額(g)	-	-	-	
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△577,332	△553,943	△576,974	
一般財源充当額	658,509	621,897	634,357	
一般会計からの繰入金	-	-	-	
一般会計への繰出金	-	-	-	
再計	81,177	67,954	57,384	

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表【CF】

(単位：千円)

区分	令和2年度	令和3年度 A	令和4年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	138,298	195,288	166,065	
行政サービス活動支出	704,711	714,726	707,161	
行政サービス活動収支差額	△566,413	△519,438	△541,095	
投資活動収入	-	-	-	
投資活動支出	-	10,539	1,197	
投資活動収支差額	-	△10,539	△1,197	
財務活動収入	-	-	-	
財務活動支出	92,096	91,920	92,065	
財務活動収支差額	△92,096	△91,920	△92,065	
収支差額 合計	△658,509	△621,897	△634,357	
一般財源充当額	658,509	621,897	634,357	
一般会計からの繰入金	-	-	-	
一般会計への繰出金	-	-	-	
前年度からの繰越金	-	-	-	

財務諸表の特長的な事項

勘定科目等	特長的な事項
【BS】 建物・工作物	こども発達支援センターの建物減価償却による減 32,742千円
【PL】 使用料及び手数料	杉の子学園在園者数減少に伴う減 28,607千円 わかたけ園在園者減少に伴う減 3,607千円
【PL】 負担金・補助金・交付金等	令和3年度国庫支出金、新型コロナウイルス感染症対策に係る特別事業分の返還による減 5,601千円
【CF】 投資活動支出	令和3年度に、こども発達支援センター内のエアコン18台分の更新を実施 9,340千円

単位当たりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」÷「実績」)

単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度
利用回数1件	コスト 67円	56円	59円
	実績 10,728件	13,379件	12,633件
	円	円	円
	実績		

令和4年度については、作業療法士(会計年度任用職員)の欠員期間があったことから、作業療法士による相談・訓練件数が減少している。  
内療育を必要とする児童は増加傾向にあることから、今後容も、こども発達支援センターの利用実績は、現在の水準で推移すると分析している。

人にかかるコストの内訳

	給与関係費等(千円)	うち時間外手当等(千円)	月平均従事人数(人)
常勤・再任用	479,171	5,918	57.58
会計年度任用等	141,883		
特別職非常勤	2,043		
合計	623,097		

分析指標

(単位：%)

分析指標	年度	令和2年度	令和3年度 A	令和4年度 B	差 B-A
施設老朽化比率		23.4	25.8	28.3	2.5
施設維持補修費比率		0.1	0.1	0.1	0.0
経常費用対公共資産比率		53.6	56.1	55.6	△ 0.5
徴収不能引当率		65.6	-	-	-
受益者負担比率		15.9	23.4	19.3	△ 4.1
一般財源充当比率		82.6	76.1	79.3	3.2